



米価の高騰について

龍谷大学経済学部

新居ゼミ

岸本 高橋 川本 伊達

目次

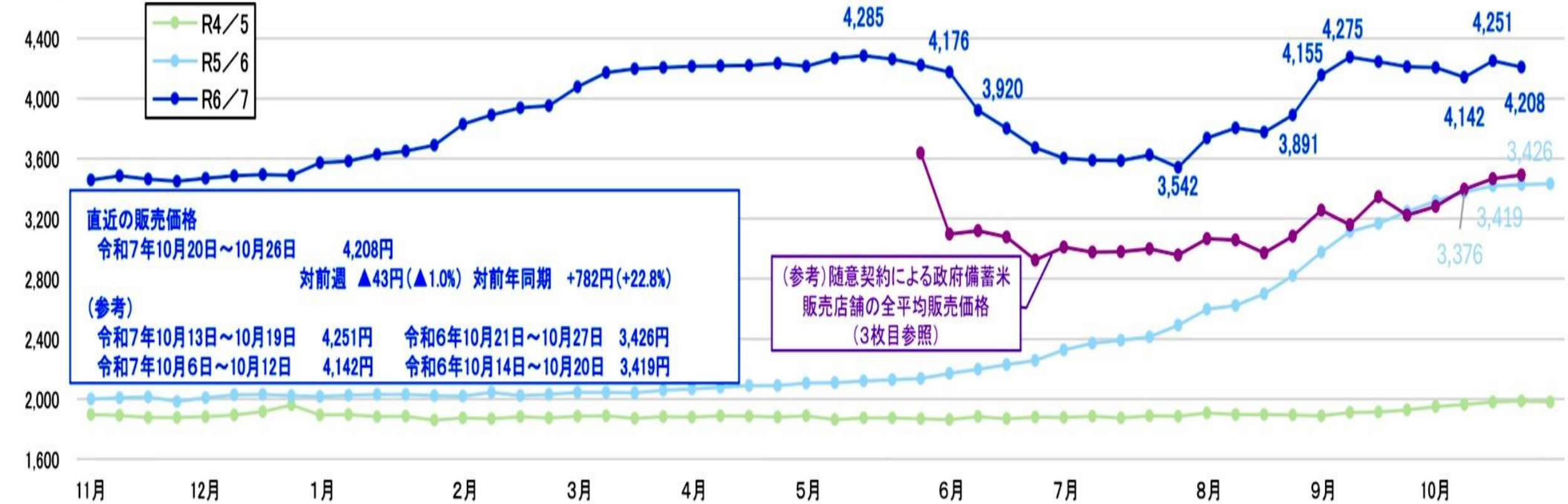
- 研究動機
- 仮説
- 現状の事例とその原因
- 現状の事例の先行研究
- 過去および国外の事例とその原因
- 対策
- まとめ
- 参考文献



研究動機

(2) 販売価格の推移

(円/5kg、税込)



資料：(株)KSP-SPが提供するPOSデータ及び随意契約による政府備蓄米販売先事業者からの報告資料に基づいて農林水産省が作成

注1：(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。

注2：週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。

注3：『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれる。

注4：ラウンドの関係で対前週比等の数値は一致しないことがある。

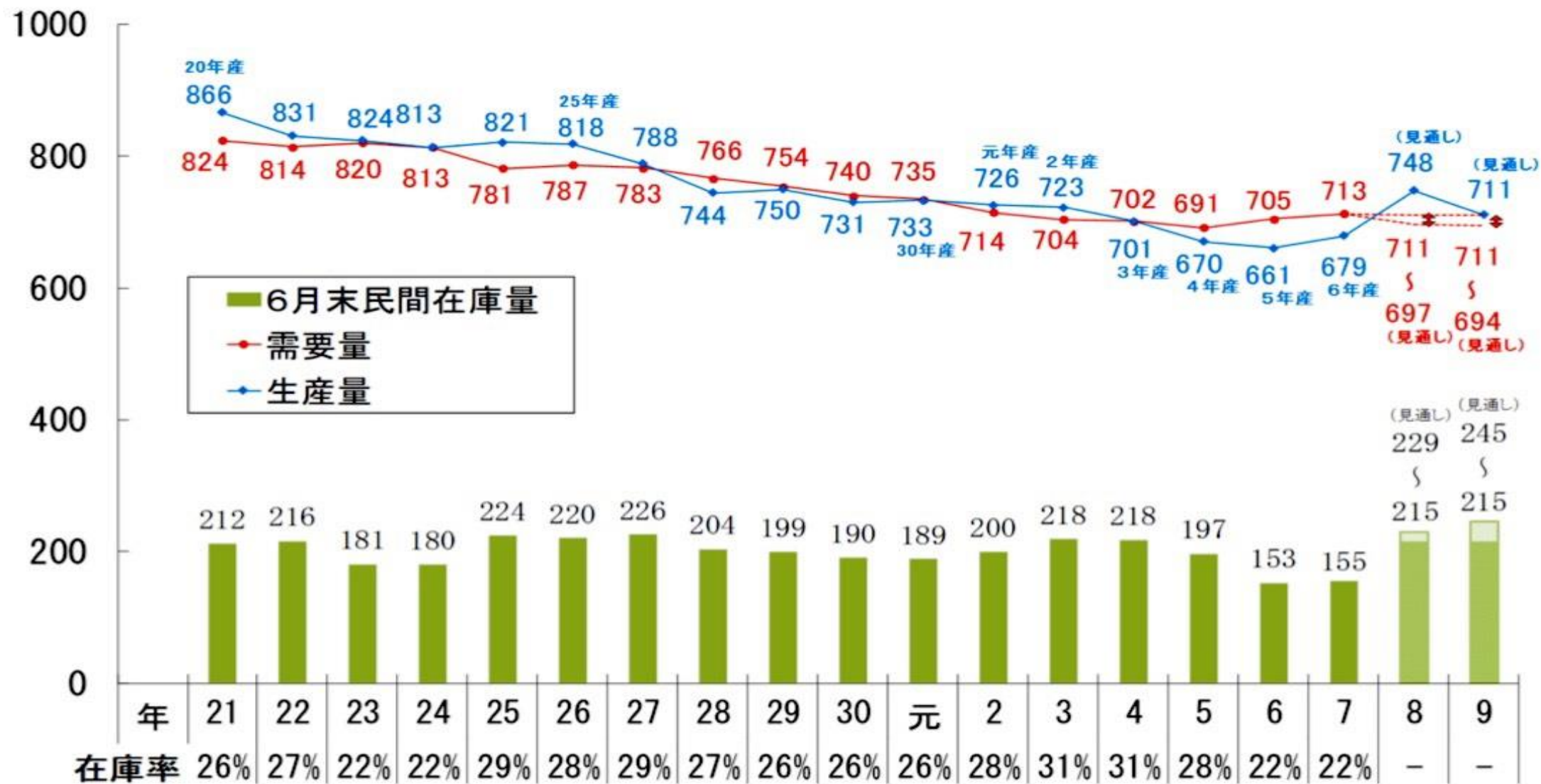
本資料のお問合せ先

農林水産省 農産局企画課企画班

TEL 03-6738-8964

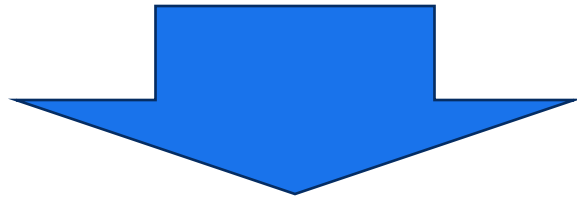
需要量と生産量

万トン(玄米)



研究動機

- 現状コメの収穫量と米価の高騰のペースが合わない
(需要と供給の観点から同じのはずなのに)



- 過去の米騒動と比較研究をしていく

仮説

どんな状況でもある程度の効果が見込める対策があるのでは？



現状の事例とその原因



現状

令和の米騒動

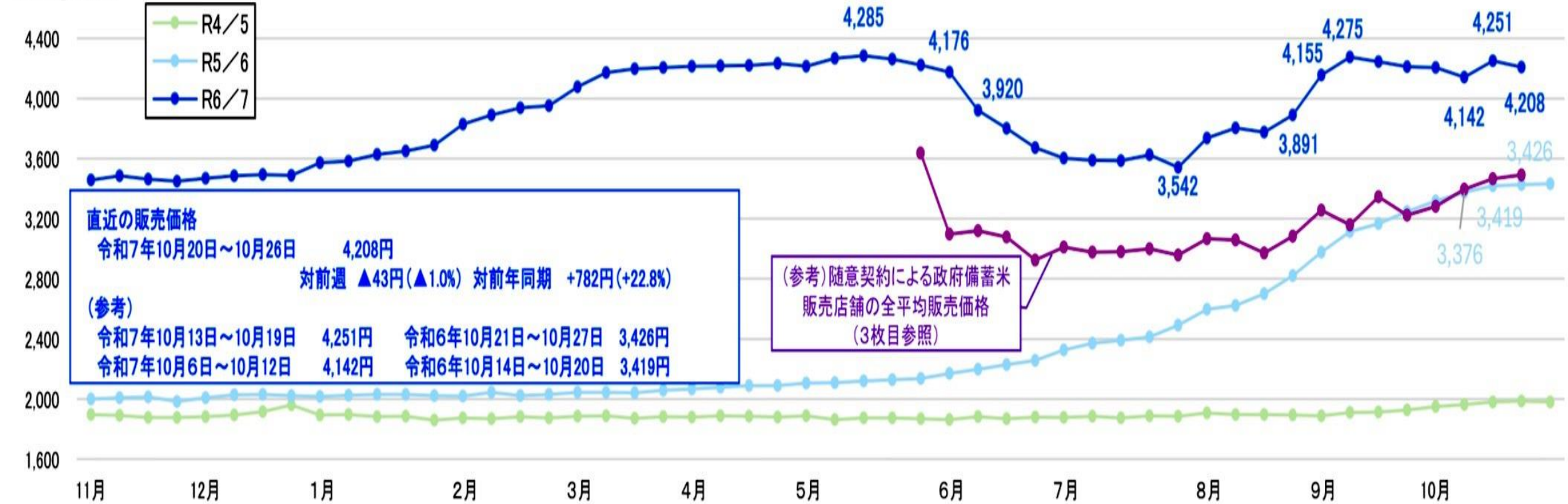
2024年8月以降、現在（2025年11月）も続いている米不足と価格高騰を巡る社会現象

2025年6月以降、備蓄米の流通により一時的に価格は低下したが、8月以降は新米の出回りや備蓄米の販売がピーク時に比べ減少したことを背景に上昇した後、横ばいで推移

2022年以降、需要量が生産量を上回っている

(2) 販売価格の推移

(円/5kg、税込)



資料: (株)KSP-SPが提供するPOSデータ及び随意契約による政府備蓄米販売先事業者からの報告資料に基づいて農林水産省が作成

注1: (株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。

注2: 週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。

注3: 『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれる。

注4: ラウンドの関係で対前週比等の数値は一致しないことがある。

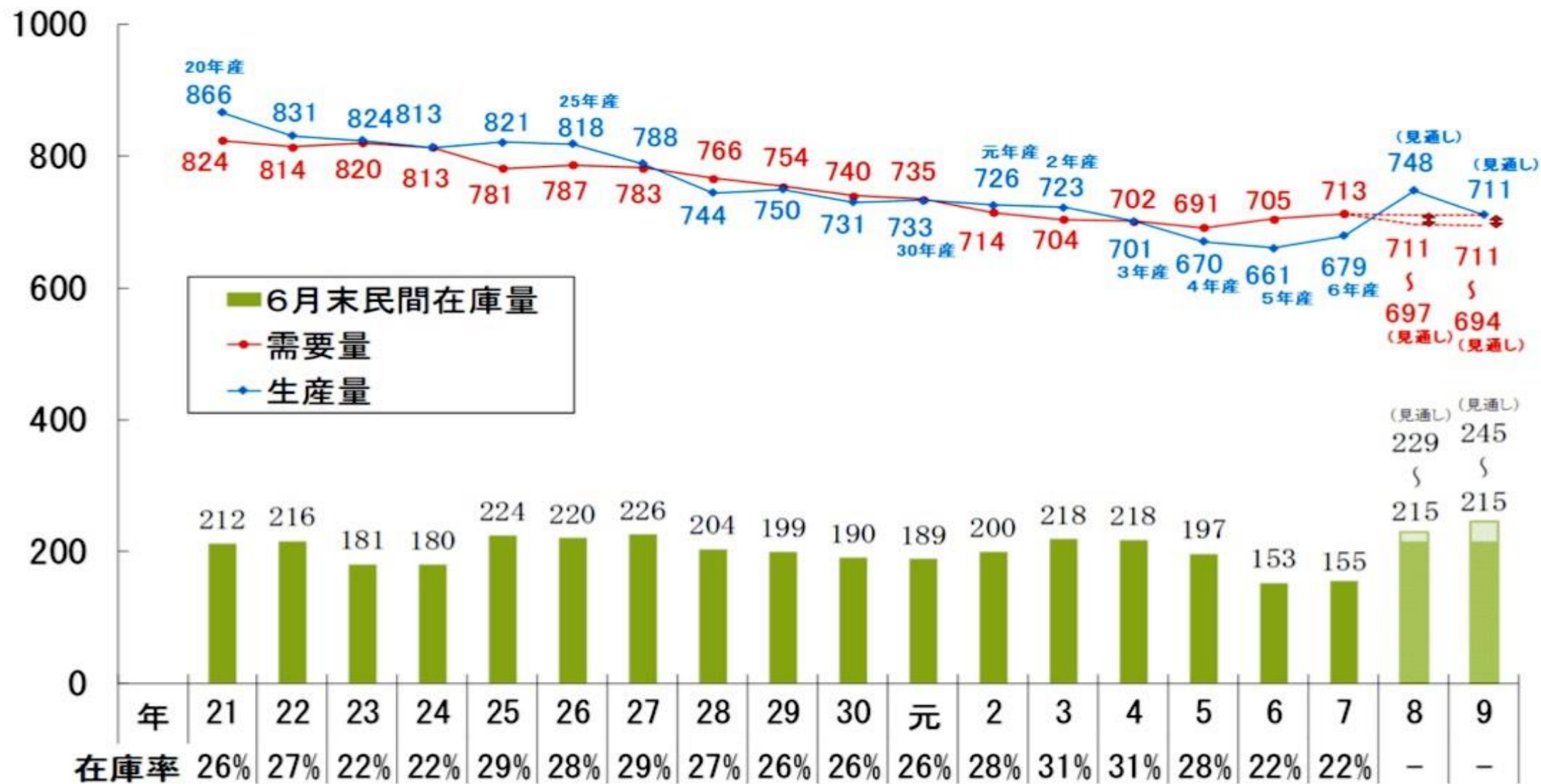
本資料のお問合せ先

農林水産省 農産局企画課企画班

TEL 03-6738-8964

需要量と生産量

万トン(玄米)



原因（現状）

- 高温障害等により精米歩留まりが悪かったことによる生産量の低下
- インバウンド需要や、家計購入量の増加など一人当たり消費量の増加
- メディアなどで米の品薄が報道され、不安から買い占めをする人が続出
- 生産量（玄米ベース）は足りているとの認識の中で、不作時に備蓄米を放出するというルールの下、放出時期が遅れ、更なる価格高騰を招いた



精米歩留まりの悪化	インバウンド需要	家計購入量の増加 (2人以上世帯の購入量)
令和4年産 90.0% ⇒平常時の値 令和5年産 88.6% ⇒約10万トン 令和6年産 89.2% ⇒約6万トン	令和4/5年 2.1万トン 令和5/6年 5.6万トン 令和6/7年 6.3万トン	令和4/5年 56.6kg/世帯 令和5/6年 57.2kg/世帯 ⇒対前年約2万トン増 令和6/7年 69.2kg/世帯 ⇒対前年約11万トン増

現状の対策

- 需給の変動にも柔軟に対応できるよう、備蓄の活用や、耕作放棄地も活用しつつ、増産に舵を切る政策への移行
- 生産性の向上
- 輸出の抜本的拡大
- 精米ベースの需給見通しの作成と消費拡大
- 流通構造の納得感の醸成
- 水田政策の見直し



現状の事例の先行研究

先行研究

農林水産省（令和7年8月）

「今般の米の価格高騰の要因や対応の検証」

「需要の低下を見越した生産量の見通しを立てたが、逆に需要が増加し生産量の補填をできる在庫が無かった」のが米価高騰の原因という主張の論文

先行研究

- 生産量の見通しを立てる際、人口の減少等による需要のマイナス・トレンドの継続を前提としている生産量の見通しを作成
- 精米歩留まり（精米した際の玄米に対する白米の割合）の低下も考慮されていなかった
- 民間在庫の多くはすでに売り先が決まっており取り崩しても緊急事態に対応するには足りなかった
- 米が不足するという不安からの競争の激化
- 政府備蓄米も不作時に放出するルールであったため法主時期が遅延

先行研究

対策

- 生産量の向上
- 増産の出口として輸出の拡大
- 精米ベースの供給量、需要量、消費者動向を把握した余裕のある需要見通しの拡大
- 水田政策の見直し

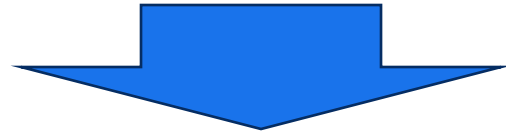
等



過去および国外の 事例とその原因

1918年米騒動

- 第一次世界大戦中により日本の経済は好況となった。輸出が増大し重化学工業の発展が見られた反面国内で生活に必要な物資が不足したため物価上昇。



- この物価上昇に加えて8月からシベリア出兵を当てこんだコメの買い占めや売り惜しみにより米価上昇。コメの安売りを求める米騒動が全国に広がった。

対策（1918年）

- 寺内正毅内閣は外米管理規則を公布して18年4月から外米輸入を政府専管と農商務省に臨時外米管理部を新設。

→この外米管理は政府は指定商に外米の買付を委託して大量の外米を蓄積・管理し、順次市場への供給を開始。このため18年5月から外米輸入量は増加。

- 原敬内閣も輸入促進のため関税を免除。さらに政府による外米の買付・輸入を積極化。

→こうして18～19年には大規模な外米輸入が展開

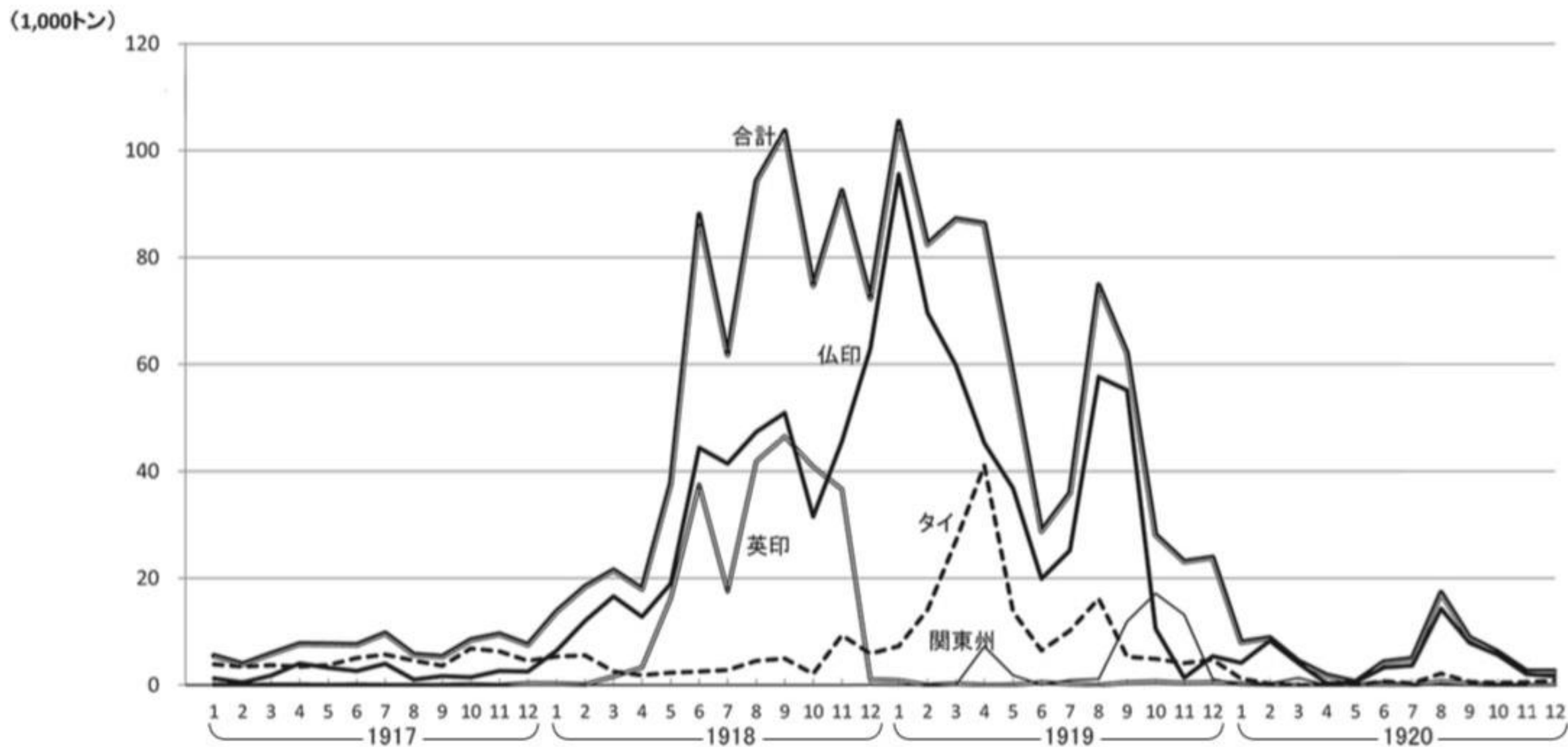
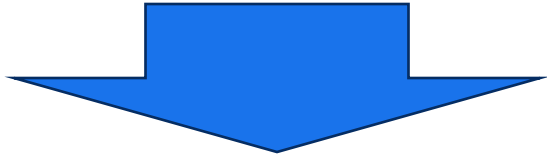


図1 外米輸入量（月別）

出典：大蔵省編纂『大日本外国貿易月表』（1917年1月～1920年12月）。

1993年米騒動

- 記録的な大冷夏や長期的な梅雨前線の停滞により冷害やいもち病などの原因で大凶作になった。



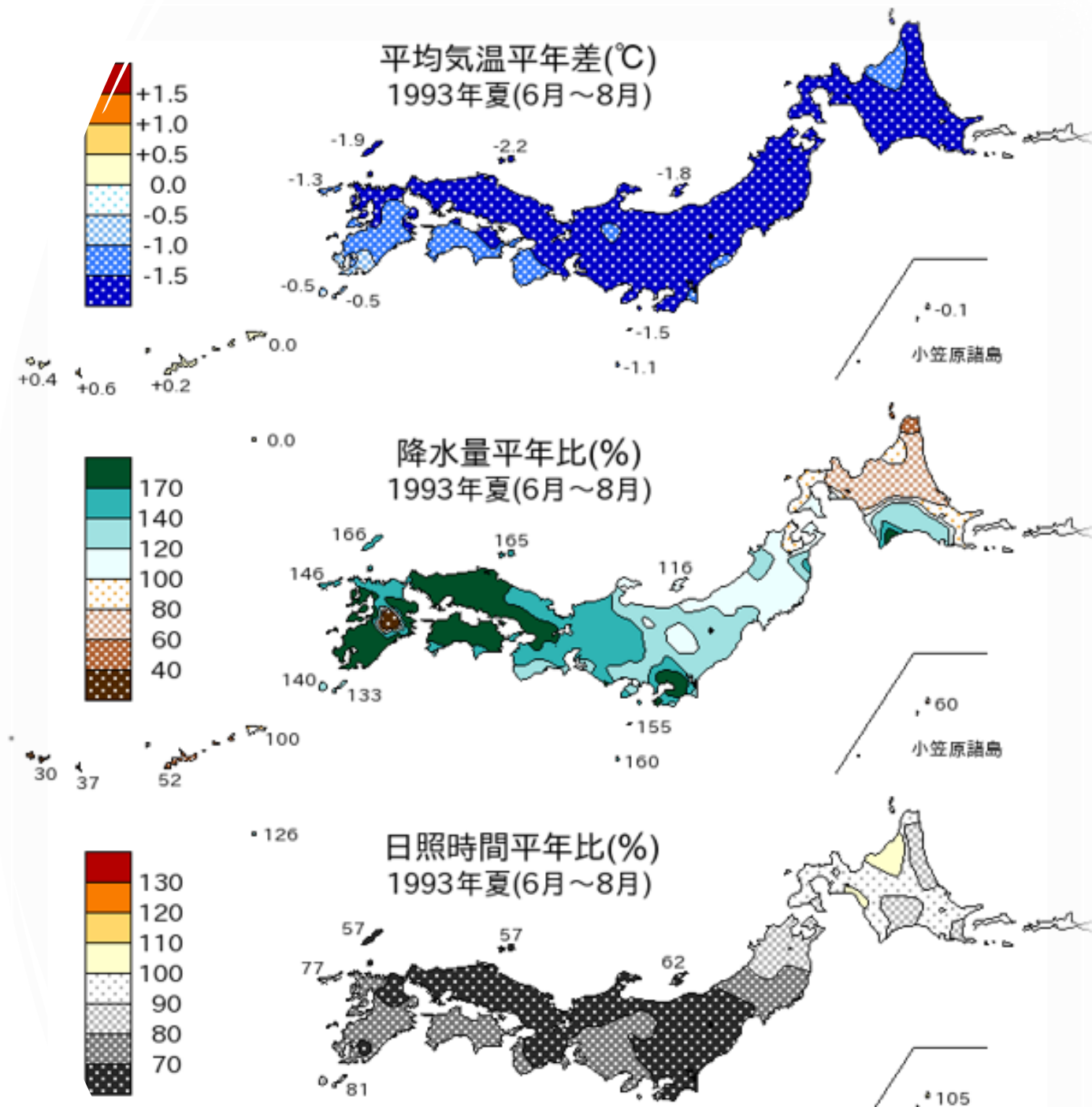
- 全国적으로お米が不足して「平成の米騒動」と言われる現象が起きた。
→これらの経緯を踏まえてお米をいつでも安定的に消費者の人に供給できるようにできたのが「備蓄米制度」である。

備蓄米制度とは

- 冷夏により戦後最悪の作況指数 74 となった 1993 年の米騒動（平成の米騒動）をきっかけに 95 年から始まった。
- 毎年 20 万トンの米を買い入れ約 100 万トン（10 年に一度の不作にも供給できる量）を目安に備蓄し、不作による供給や地震などの緊急時に備えている。

気温、降水量、日照時間平年差

- 平均気温は全体的に -1.5 度と平年より下がっていたり日照時間が少なくなっていて降水量が多くなっている。



享保の大飢饉

- ・ 享保 17 年（1724年）に起こった飢饉
- ・ 享保6年、7年にも水害などによる飢饉が起こっており、生産力が低下しており、凶作の年が多かった。
- ・ そんな折に山陽（中国地方周辺）南海（四国地方周辺）西海（九州地方周辺）の三道で蝗害が発生し大規模な飢饉となった

享保十七年の前五年間の平均収穫量 約二百三十六万石（三十五万四千トン）

享保十七年の収穫高 約六十二万石（九万三千トン）

平均収穫量からの損耗高 約百七十三万石（二十五万九千トン）

対策

- 米の買い占めの禁止
- 金銀の貸与
- 食料や薬の配給
- 囲い米の放出
- サツマイモなどの栽培の奨励

タイ米の高騰について

- 2008年
- 2011年～2012年

タイ米を調べた理由

- 過去の事例を学ぶことで、政府や市場がどのような対応を取ったのか、またその対応が成功したのか失敗したのかを調べることで現在の米価の高騰の要因や対策を考えるための手がかりとなると考えたから。

2008年タイ米の高騰 原因

- ①2008年に世界の小麦の価格が上昇したから
- ②コメの輸出世界2位のインド、3位のベトナムが輸出を禁止
- ③パニック買いが起きた

タイ米の米価の推移

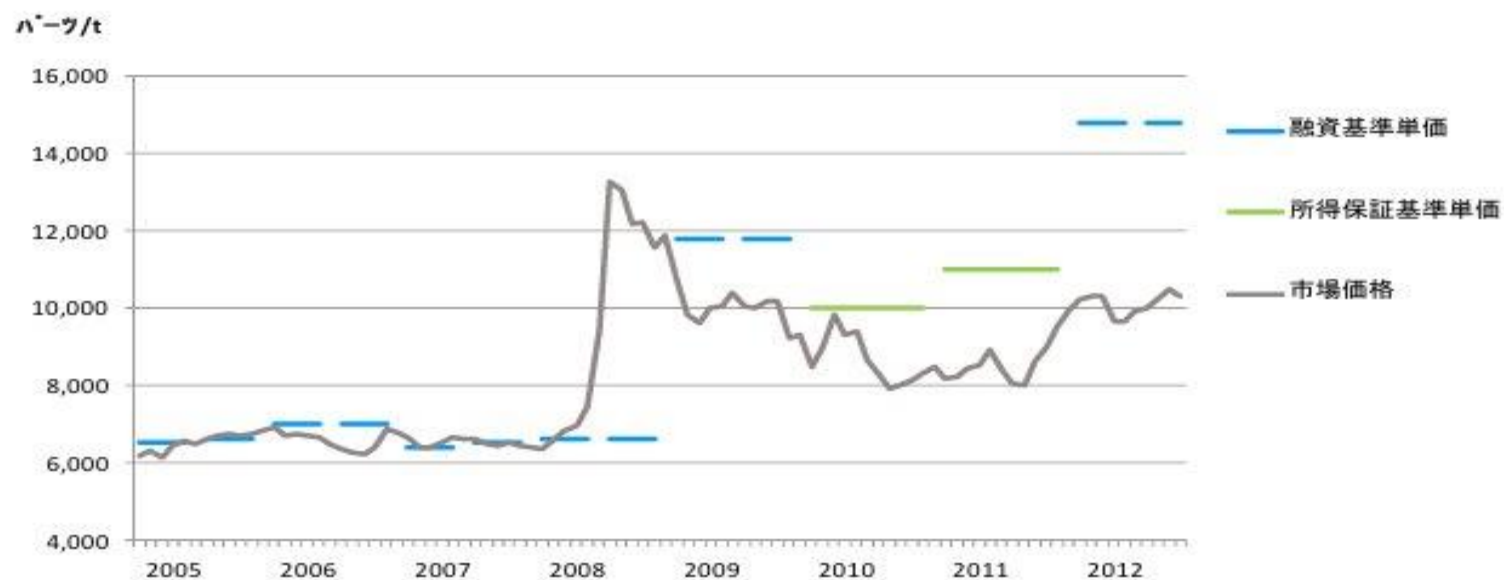


図 10 市場価格（農家庭先価格）と、粳米担保融資基準単価及び所得保証基準単価の比較（うるち米 5%）

出所）(重富 et al. 2009, p.101)を参照し、商務省国内商取引局及び農業協同組合省農業経済局のデータを基に著者作成。

注）粳米ベース

タイの対応

- 粳米担保融資制度の導入

→農家が収穫した粳米を政府に預け、それを担保として政府系金融機関から現金を融資してもらう仕組み

- 価格保障政策の実施
- 新期作米の導入



政府は輸出禁止を行わず、市場対応を重視していた

粳米担保融資制度の具体的な内容

- 粳米を担保とした融資期間は4か月
- もし期間中に市場価格が融資基準単価を上回れば、農家は融資額と利子（年率3%）を返済して、粳米を受け戻して、市場で売却する。もし市場価格が融資基準単価を下回れば、質流れとなり、農家は融資を返済せず、担保として納入された粳米は精米所において精米され、商務省の公共倉庫機構（PWO）に引き渡される。しかし、実際には融資額を返却されることはほとんど無かったため、融資基準単価で粳米を政府が買い入れる状態

2011年から2012年の タイ米の高騰

【原因】

粳米担保融資制度の融資基準価格を
市場価格の**約2倍**にしたから

Rice in Asia Soars to Highest Since 2008

Thailand urges farmers to curb plantings to save water

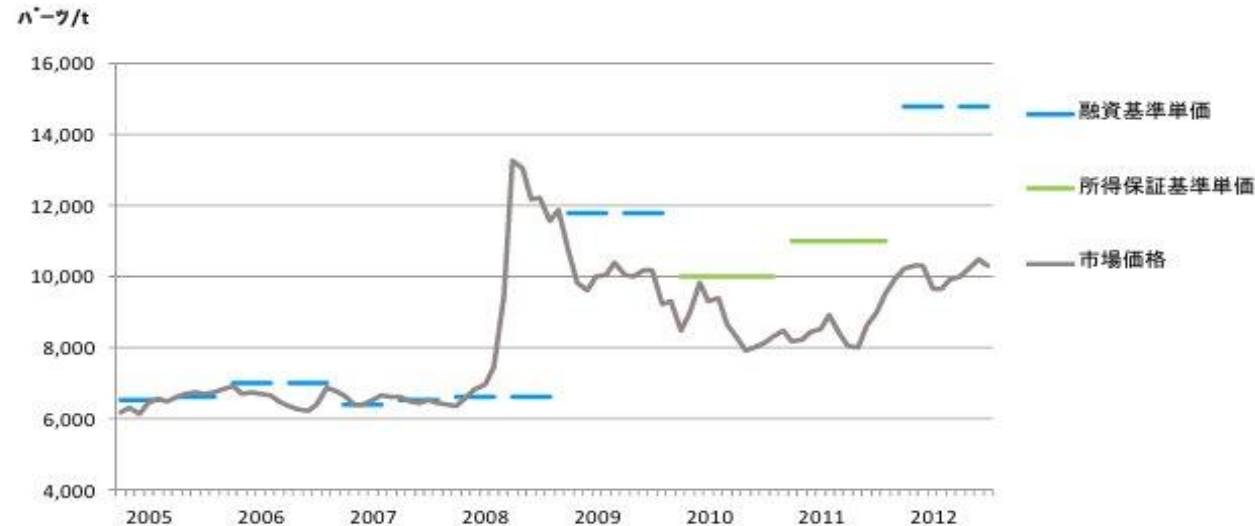


図 10 市場価格（農家庭先価格）と、粳米担保融資基準単価及び所得保証基準単価の比較（うるち米 5%）

出所）(重富 et al. 2009, p.101)を参照し、商務省国内商取引局及び農業協同組合省農業経済局のデータを基に著者作成。

注）粳米ベース



まとめ

まとめ

	令和の米騒動	1918年の米騒動	1993年の米騒動	享保の大飢饉	タイ米の高騰
原因	生産量の低下 消費量の増加 米の買い占め 備蓄米放出の遅延	物価上昇に加えて シベリア出兵を当 てこんだコメの買 い占めや売り惜し み	記録的な大冷夏、 長期的な梅雨前線 の停滞により冷害 やいもち病の発生	享保17年以前に 水害などで飢饉 が発生、生産力 が低下していた 中での大規模な 蝗害	小麦の高騰 他国の輸出禁止 パニック買い 融資基準額の誤り
対策	生産性の向上 輸出の拡大 需給見通しの作成 と消費拡大 水田政策の見直し	大量の外米を輸入 し、順次市場へ供 給開始	タイ米などの外米 を輸入 これを機に「備蓄 米制度」が開始	金銀などの貸付 サツマイモなど の育ちやすい作 物の栽培の奨励 囲い米の放出の 強制	粳米担保融資制度 価格保障政策 新期作米

まとめ

- 取り上げた五つの米騒動の対策として、それぞれに米の輸入、備蓄していた米の放出など市場に出回る米を増やすものが含まれている
- 足りていない需要に対して供給量を増やして対応するのは定石

考察

- 緊急時に即時に市場に米を供給できる制度が常にある程度の効果が期待できる

まとめ

- 緊急時に即時に市場に米を供給できる制度が常にある程度の効果が期待できる
- 国内、国外の情勢に関わらず対応できるようなものが好ましい
- 備蓄米制度の見直しが適当であると考える



参考文献

参考文献

- [平成24年度海外農業情報調査分析事業\(アジア\)](#)
- [shigetomi.s2011.pdf](#) (－中進国化したコメ輸出大国の苦悩)
- [アジアのコメ価格上昇、タイ白米が08年以来の高値－供給リスク浮上 - Bloomberg](#)
- 小鹿島 果(1967年)．『日本災異志』．出版社 地人書館
- 今般の米の価格高騰の要因や対応の検証(農林水産省)
[index-494.pdf](#)
- 米の需給状況の現状について
[r6_kome_ryutu-346.pdf](#)
- スーパーでの販売数量・価格の推移 (POSデータに基づき作成、全国・週次)
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/ksppos.pdf>

参考文献

- <https://www.kokuminkaikan.jp/about/kingen/kg/2t-1vsl0> (1918年米騒動)
- https://www.maff.go.jp/j/heya/kodomo_sodan/0012/07.html (備蓄米制度)
- https://www.data.jma.go.jp/cpd/j_climate/tohoku/sum_column.html
- [米騒動前後の外米輸入と産地東洋大学学術情報リポジトリhttps://toyo.repo.nii.ac.jp > ...](https://toyo.repo.nii.ac.jp/>...)